

NEWS

The Kagawa Museum

vol. 59

香川県立ミュージアム
ニュース
2023 春号



Contents

特集

弘法大師空海生誕1250年記念特別展
空海 —史上最強、讃岐に舞い降りた不滅の巨人

調査研究ノート vol.45

多度津藩政資料から見る多度津藩庁移転

ミュージアムガイドンス vol.47

オニing(おにんぐ) —こんな「つづける」があったのか!?

収蔵品紹介

ひな じっしゅう
雛道具のうち十種香道具

展示室だより

ひらやま いくお
平山郁夫 —祈りの讃岐路をゆく

れきみんだより

れきみん50周年を前にして
—瀬戸内海民俗文化の探求の軌跡—



重要文化財

ふ どう みょう おうりゅうぞう どう じ ぎ ぞう
不動明王立像および童子坐像

與田寺蔵

怒れる不動明王像だが、表情は少年のような人懐っこさをみせる。破綻のない巧みな造形表現は当代一流の慶派仏師のもの。着衣には華麗で繊細な金銀の文様が施される。修理後、初公開。

この春、空海をテーマに国宝10件、重要文化財15件、地方指定文化財7件をふくむ全60件の作品を、ここ香川にて一挙公開。

弘法大師空海生誕1250年記念特別展

空海 一史上最強、讃岐に舞い降りた不滅の巨人

空海その人のぬくもりを慥かに伝える名宝をはじめ、空海への強い思慕のもと、弘法大師信仰の広まりのなかで創出され継承されてきた御影や伝記、物語絵などの作品、そして空海誕生前後の讃岐の仏教美術の様相にも触れながら、県内に伝来する華麗で多彩な密教美術も展示します。ここでは香川ゆかりの展示作品をいくつかご紹介します。

空海の名文と名筆

空海は文才に優れていた。24歳の時、出家宣言書にあたる『三教指帰』を著したのをはじめ、空海の秀でた文章力を示す事績は多い。『遍照発揮性霊集』(通称『性霊集』)は、弟子の真済が空海存命中よりその漢詩文を10巻に編集したもの。原本は現存しないが、今、香川県内に最古級の写本第三巻の断簡

[図1]が伝わる。本品は奈良国立博物館の国宝残巻と倭巻で、もともと『日本書紀』の平安時代(9世紀)の写本の紙背を再利用し『性霊集』を記した。『日本書紀』『性霊集』、両者いずれも国内最古級の写本であり、奈良博本と初めて同時公開が叶う。

「草聖」と称され、名筆で知られた空海。「善通寺額」[図2]のように後世生まれた逸話も多く、真筆と伝わる墨蹟は少なくない。萩原寺の『急就章』[図3]は、空海の名筆として伝来し江戸幕府の5代

將軍徳川綱吉の上覧にも供した。『急就章』は中国・漢時代に成立した文字学習書。空海は唐で王羲之筆のものを入手し、帰朝後、嵯峨天皇に献上したという。

空海御影 寺外初公開

空海の姿(肖像)を、画像は11件、彫像は2件を一室に集める。うち10件が香川県内に伝わる空海像だ。幼い空海を描く興田寺像は色鮮やかで、高い聖性を示す。大興寺の天台大師智顛像と一具の空海像[図4]は、建治2年(1276)の銘をもつ四国最古像だ。運慶の嫡男湛慶の弟子かつ東大寺流を自称する大仏師法橋佑慶によるもので、中世讃岐における天台と真言の二宗兼学を知る唯一の遺品でもある。威徳院像[図5]は、天明4年(1784)、京仏師二代清水隆慶の作で、天福元年(1233)に運慶の四男康勝が制作した東寺御影堂像(国宝)の模刻像という。2件の彫像は寺外初公開となる。このほか六万寺の熊野曼荼羅図に描かれた空海像も、類例が限られる逸品といえる。



図4 弘法大師坐像



天台大師坐像

香川の密教美術

空海誕生前の讃岐の仏教美術を代表するものに願興寺の乾漆聖観音坐像[図6]を挙げねばならない。奈良時代、漆は貴重で脱活乾漆の技法は官立工房等、都に限られた。古代讃岐と都の密接な関係を物語る重要な像である。

海上を通じてもたらされた中国・唐製の品がある。弥谷寺の五鈷鈴[図7]は、鈴身に四天王を配する華麗な梵音具で善通寺の国宝 錫杖頭[後期展示]と同様、空海請来と伝わる。開法寺の阿弥陀曼荼羅[図8]は国宝 諸尊仏龕(金剛峯寺)[前期展示]に同じく白檀材に施された緻密な彫技が必見である。

空海の時代から時を経るが、多彩な密教美術品が伝わる。金刀比羅宮の『金剛界瑜伽略述三十七尊心要』[図9]は平

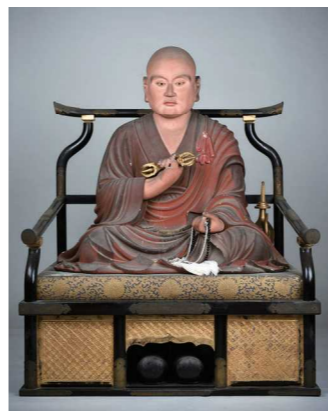


図6 香川県教育委員会提供



図7 奈良国立博物館提供



図8

安時代中期の温和な筆致による密教經典の優品で、長暦4年(1040)の奥書をもつ。極楽寺の両界曼荼羅図[図10]は、平成15・16年度の修理後、初の里帰りとなる。萩原寺の法華曼荼羅図とならぶ県内最古の密教絵画だ。行徳院の六字明王立像[図11]は、平安時代に遡る六字明王の彫像として国内唯一のもの。近年の修理により、その価値が再確認され香川県指定有形文化財となった。興田寺の不動明王立像および童子坐像[表紙]も、重要文化財指定後の修理を経て、今回初公開となる。修理において、像内墨書に運慶の父「僧康慶」の名が確認され

た。江戸時代、弘法大師九百年遠忌を控えて、東寺から興田寺に移入された尊像である。ほか法然寺の天弓愛染明王坐像[図12]は高松藩主松平頼重の発願による大仏師久七の作で、注目される江戸時代の密教尊像だ。

なお、会場では空海ゆかりの香川の景観も新進の写真家 宮脇慎太郎氏の作品で紹介する。香川というフィールドを通し、空海の時代やその足跡に想いを馳せていただきたいと思う。

(主任専門学芸員 三好 賢子)



図11

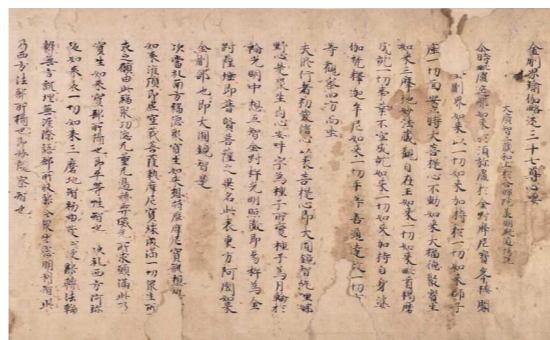


図9

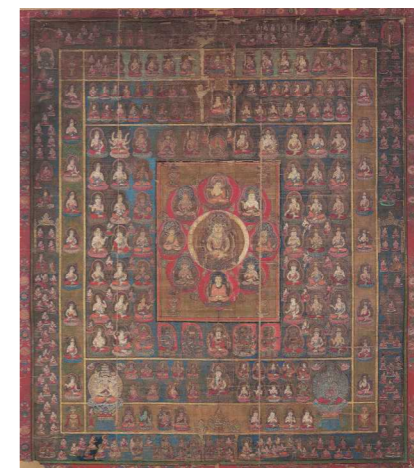


図10



画像提供: 東京国立博物館 Image:TNM Image Archives



図2

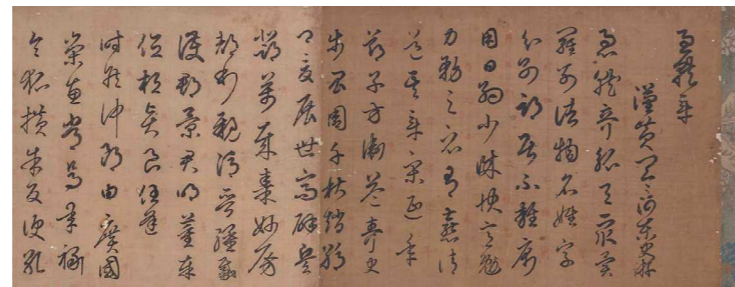


図3

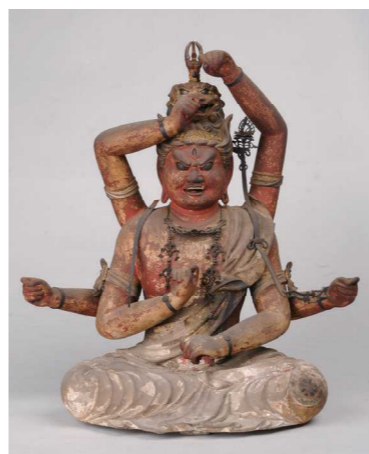


図12

- 1 日本書紀断簡(紙背 性霊集) 個人蔵☆
 - 2 ◎高野大師行状図画 第6巻(部分) 白鶴美術館蔵☆
 - 3 ◎急就章 萩原寺蔵 後期展示
 - 4 □天台大師坐像・弘法大師坐像 大興寺蔵
 - 5 弘法大師坐像 威徳院蔵
 - 6 ◎乾漆聖観音坐像 願興寺蔵
 - 7 ◎金銅五鈷鈴 弥谷寺蔵 ◎森村欣司
 - 8 ◎板彫阿弥陀曼荼羅 開法寺蔵
 - 9 金剛界瑜伽略述三十七尊心要 金刀比羅宮蔵
 - 10 ◎両界曼荼羅図 極楽寺蔵
 - 11 □六字明王立像 行徳院蔵 ◎佐々木香輔
 - 12 天弓愛染明王坐像 法然寺蔵
- ◎=重要文化財 □=香川県指定有形文化財
☆=場面替えあり ◎=撮影

弘法大師空海生誕1250年記念特別展 空海 一史上最強、讃岐に舞い降りた不滅の巨人

会 期:4月22日(土)~5月21日(日)
[前期]4/22~5/7 [後期]5/9~5/21

会 場:特別展示室

開館時間:9:00~17:00(入館は16:30まで)

休 館 日:月曜日(ただし5月1日は開館)

観 覧 料:1,200円、前売・団体(20名以上)1,000円

高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は観覧料無料
国際博物館の日(5月18日)はどなたさまも無料

関連イベントは巻末インフォメーションをご覧ください。

多度津藩政資料から見る多度津藩庁移転

多度津藩史上、画期のひとつとなる文政10年(1827)の多度津藩の陣屋建設。香川県立ミュージアムに収蔵されている多度津藩政資料を読むなかで見てきた、陣屋建設にかかる多度津藩庁移転について紹介します。

多度津藩政資料とは

多度津藩政資料は、県内に残る藩庁で作成された藩政資料群として貴重です。現在、当館に収蔵されている「多度津藩政資料」は、全部で668点あります。このうち413点は公務として記録された日記で構成されており、その他に葬儀・法要に関する文書や算用帳などが含まれています。欠けている年代があるものの、宝永元年(1704)から明治22年(1889)までの資料があります。



多度津藩政資料

本稿では、文政9年と翌10年の公務日記からわかる多度津陣屋建設に伴う藩庁の移転について紹介していきます。

多度津陣屋成立以前

元禄7年(1694)に丸亀藩の支藩として新たに誕生した多度津藩でしたが、自らの城は持っておらず、政務は丸亀城内の屋敷で行われていました。寛政8年(1796)に京極高賢が4代目藩主になると、家老の林直馬時重は多度津に藩主の居館と藩庁を置くことを進言し、多度津陣屋建設に向けて動き出します。「陣屋」というのは、築城を許されていない大名の屋敷を意味します。

丸亀城内で執務をしていた時期も、藩主や藩士は定期的に多度津を巡回しており、一部の藩士たちは多度津に住んでいました。巡回の際、休憩所として使われていたのが堀江(現 多度津町堀江)にあった御茶屋です。堀江御茶屋がいつ頃出来たか明確ではありませんが、明和8年(1771)の日記には「堀江御茶屋」の記述があるため、その頃にはすでに建設されていたことがわかります。文化4年(1807)11月には多度津にも御茶屋が完成し、後に陣屋の中核となります。しかしながら、陣屋建設の責任者であった林時重が文化5年に没し、陣屋計画は一時中断します。

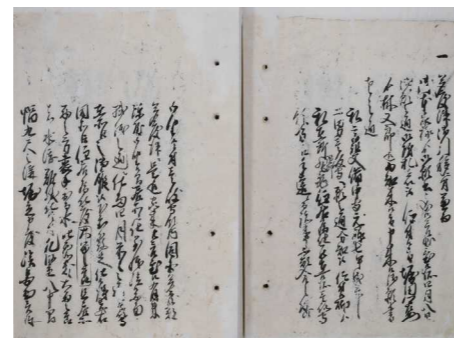
多度津へ引越し

時重の没後、文政8年に息子の林直記(後の良齋)が家老となり、中断していた陣屋建設を進めることになります。文政9年には、藩主高賢が藩庁の多度津移転を表明することにより、多度津へ移る動きが加速していきます。同時期の日記には、役所の移転や藩士の引越しに関する記事がまとまって見られます。

文政9年10月25日、まず先だって多度津へ引越しする者の人選があり、林直記を含む10名が候補に挙げられます。12月25日には、藩の執務室である御広間御番を移転し、藩政事務は多度津で取り扱うこととなります。翌年1月12日には、引越しに関わる人事などを担当する大目付方の箕部安左衛門が多度津へ引越し、5月26日に財政関係を取り扱う役所が多度津へ移転、財政関係などは6月1日から取り扱うこととなりました。

多度津藩政資料からは、多度津への移転は時期を見て一斉に丸亀から多度津へ移るのではなく、計画的かつ段階的に行われていったことがわかります。多度津藩の歴史や体制を知るうえで、基礎となる多度津藩政資料。藩の歴史をひも解く資料として、今後も調査・研究を続けていきます。

(学芸員 川邊 優佑)



日記(文政10年)
多度津への移転について、幕府へ提出した願書を記す。丸亀藩を通して幕府に願出していることがわかる。

展覧会情報

多度津藩政資料を読む—多度津藩の引越し—

常設展示室1
4月15日(土)~7月10日(月)

ミュージアムトーク

5月7日(日)、7月8日(土) 各13:30~

関連学芸講座は巻末インフォメーションをご覧ください。

オニing(おにんぐ) —こんな「つづける」があったのか!?

みんなで楽しむ「美術系・芸術体験」プロジェクト

平成24年(2012)、2回目の瀬戸内国際芸術祭を翌年に控えたこの年、地元香川の中学生が芸術祭に参加できないか、美術の先生方がプロジェクトを考えます。それが「オニノコプロジェクト」。翌年の芸術祭では、女木島の洞窟内に中学生が作った鬼瓦3,000点が、ずらりと並びました。それは、ある意味“事件”でした。生徒と先生が作り上げたインスタレーションが、芸術祭の公式作品として認められたのです。搬入や展示は島民の方にもお手伝いいただき、みんなで楽しむプロジェクトとなりました。

「つづける」をプロデュース

オニノコが再始動したのは、芸術祭から3年後の平成28年のことです。きっかけは、当館の特別展「讃岐びと、時代を動かす」連携事業として「さぬきる」を計画したことにあります。中学生が地域の魅力的な「こと・もの・ひと」を切絵で表現し、4,000点もの作品で構成する巨大インスタレーションが誕生したのです。これを機に、オニノコの活動は、学校と博物館が連携した事業へと発展します。翌年からは、香川県教育委員会からの委託を受け「かがわ未来のアーティスト育成事業」の一環として、美術による社会貢献を目的とした「オニノコプロジェクト」を展開することになります。現在は香川県中学校美術教育研究会と当館の共同事業として、主役は生徒、指導は先生、プロジェクトを「つづける」パートナーが当館という構図が定着しました。

※「オニノコプロジェクト」は、瀬戸内国際芸術祭2013で女木島の鬼ヶ島大洞窟に中学生が作った鬼瓦を展示したことに始まる。当初、参加した中学生やその作品を「鬼の子どもたち=「オニノコ」と呼んだ。現在はプロジェクトを総称して「オニノコ」と呼ぶことが多い。



オニノコプロジェクトによる展示風景(令和5年1月)

極上の「つづける」とは?

ここ数年、オニノコの作品展示は当館の正月恒例となっています。今年は久々にワークショップも開催し、来場者にはクラフト制作を体験してもらったり、中学生手作りのお土産を持って帰ってもらったりしました。会場では来場者と中学生のコミュニケーションが生まれ、自然と笑顔が広がります。美術には人を幸せにする力があることを改めて実感しました。活動を「つづける」ことで出会えた極上の光景です。

どうする博学連携

多様なアートシーンに触れた生徒たち。作品が飾られたという出来事。多くの人と関わった経験。「あでもないや、こうでもないや」と試行錯誤しながら創り出してきたこれらの特別な体験は、彼らのこれからの学校生活や、社会生活にどのような影響を与えるのでしょうか。WEB広報誌「文化庁広報誌 ぶんかる」には、「子供時代の文化芸術体験は、大人になった時の文化芸術に関する行動等に、プラス方向への影響を与える」(橋本紀子“ぶんかるNews 012” https://www.bunka.go.jp/prmagazine/rensai/news/news_012.html、令和5年2月7日閲覧)ことが報告されています。博物館と学校が連携することで続いてきたこれまでの活動が、これからの社会を創ろうとする彼らの基盤のひとつとなることを願っています。

香川県立ミュージアムは「オニノコ」をはじめ、今後も学校の良きパートナーとしての役割を果たすべく、より積極的な活動にチャレンジしたいと考えています。

(主任専門職員 櫻木 拓)



オニノコプロジェクトによる来館者向けワークショップの様子(令和5年1月)

収蔵品紹介

ひな じっしゅ こう
雛道具のうち十種香道具

雛祭りにおいて、現在のように雛人形を飾るようになったのは江戸時代の寛永年間(1624~44)頃と言われています。雛祭りは庶民まで広がり、人形と一緒に飾る調度類も作られるようになります。高松松平家にも、第12代当主夫人の昭子(1883~1976)、第13代当主夫人の香枝子(1916~1997)が所有していた雛人形や雛道具が伝来しています。

婚礼調度を写した雛道具は多岐に及び、棚などの調度のほか、身を整えるための角盥や鏡、硯や料紙といった筆記具、茶道具・香道具などが残っています。そのなかに、十種香道具があります。漆塗の香箱や長盆、金属製の火道具類、陶製の香炉など、香りが何であるかを当てる組香のひとつ十種香で使用される道具がまとめられています。細かく作り込まれたこれらの道具は実物をそのまま小さくしたような精

緻なものとなっています。繊細かつ豪華に作られた道具は、当時の生活の一部とともに、技術の高さも伝えます。

(専門学芸員 鹿間 里奈)



雛道具のうち十種香道具 高松松平家歴史資料

展示室だより 常設展示室4・5

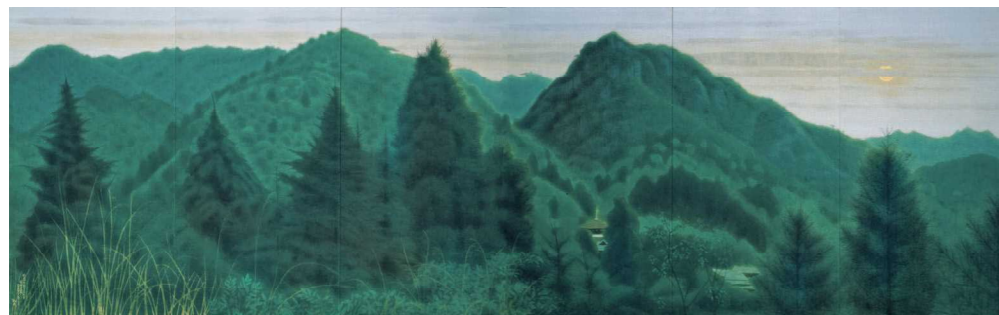
ひらやま いく お
平山郁夫—祈りの讃岐路をゆく
4月22日(土)~6月11日(日)

日本画家の平山郁夫(1930~2009)は、広島県生口島いぐちしまに生まれ、少年期を瀬戸内に暮らし、戦後は東京美術学校(現 東京藝術大学)日本画科に進みました。広島での被爆の後遺症を負うなか、中国・唐時代の僧侶玄奘三蔵げんじょうさんざうを主題にした作品「仏教伝来」を描いて以来、仏教からひも解く日本文化の源流を求めて、描き続けました。

平山は昭和62年(1987)より4度にわたり香川県を訪れ、讃岐の遍路道や寺社を主題にした風景を描きました。弘法

大師空海ゆかりの八十八ヶ所の札所を巡る四国遍路は、今日では老若男女、さらには国籍を越えて多くの人々が歩みを重ねています。本展では、全長3.5メートルに及ぶ大作「黎明讃岐路四国霊場八十八番大窪寺」いにしえをはじめ、古より現代にいたる歴史を積み重ねた香川の風景を紹介します。おだやかな陽ざしのなかを歩むようにみずみずしい景色をお楽しみください。

(主任専門学芸員 窪美 西嘉子)



平山郁夫「黎明讃岐路四国霊場八十八番大窪寺」

関連イベント

ミュージアムトーク
5月14日(日)、6月3日(土)
各13:30~

れきみん50周年を前にして
—瀬戸内海民俗文化の探求の軌跡—

令和5年11月3日、瀬戸内海歴史民俗資料館は開館50周年を迎えます。当館は瀬戸内海11府県を対象とする広域資料館として、昭和48年(1973)に開館して今日に至っています。その間、漁撈用具ぎょうろう、船大工用具せおいうばんぐ、背負運搬具が、それぞれ国の重要有形民俗文化財の指定を受けています。ここでは開館時の民俗専門職員であった高橋克夫の残した資料などから、開館前後の漁撈用具の所蔵に関わるものを拾い出して、当館の草創時の様子を振り返りたいと思います。

当館の第1展示室の中央には巨大なタイ網船が展示されていますが、これは昭和47年10月に現在の三豊市詫間町大浜から旧多度津水産高校の練習船により高松市香西本町の港えいこうに曳航されました。そこから自衛隊のトレーラーに載せられ、パトカーの先導で、安全のため、深夜0時に港を出発し五色台に運ばれて来ました。さらに同月、県水産課の漁業指導船「ことぶき」により、東は兵庫県家島諸島から西は芸予諸島に及ぶ広範囲の臨海部から漁網などの漁撈関係の用具が続々と集められました。また翌11月には、トラックで愛媛県や徳島県からイワシ地曳網船などが陸路で集められるなど収集活動の規模は当時としては異例で、その苦勞がしのべれます。



タイ網船の搬入

ところで、このような大がかりな収集活動を行った高橋の思いを伝える昭和50年の資料が残されています。収集については、「瀬戸内海民俗文化」の特色を明らかにするために瀬戸内海及び周辺全域を対象とするだけでなく、その範囲は当該文化につながりをもつ南島地域、中国、その他アジア、太平洋地域にも及ぶとしています。そして、当館の収集活動の特色は、他の類似館が試みるのが困難な大型資料(船、網など)を収集するところにあるなどとも述べています。



てぐりあみ
手繰網(底曳網)の搬入

また、別の資料では、資料収集調査には三段階があると記述しています。第一段階は資料収集で、第二段階は聞き取り調査(収集資料に関する)、第三段階は総合的分析的な研究の段階であると記述しています。高橋はまずこの第一段階に力点を置いて活動したと思われる。

令和5年度には当館のコレクション展を開催し、高橋をはじめとする当館の職員が収集した資料を、その後の調査研究の成果も踏まえながら展示し、「れきみん50年」の歴史を振り返りたいと考えています。

(瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員 真鍋 篤行)

INFORMATION [2023.4-2023.6]

特別展「空海 一史上最強、讃岐に舞い降りた不滅の巨人」関連イベント

記念講演会

すべて 無料・要事前申込

会場：地下1階 講堂
定員：230名（先着順）

1. 空海が日本彫刻史に残した足跡

日本の文化に巨大な足跡を残した空海。日本彫刻史の第一人者で本展監修者の根立研介氏に、空海とその弟子たちが、平安初期彫刻史にいかにか大きな影響を与えたかについてお話しいただきます。

日時：4月23日（日）13:30～15:00

講師：根立研介氏

（本展監修者、京大名誉教授、公益財団法人美術院理事長）

申込期間：3月22日（水）～、定員になり次第終了

2. 激震の空海

哲学者として、長きにわたり、空海について思索を重ね続ける篠原資明氏に、讃岐の人・空海についてお話しいただきます。

日時：5月20日（土）13:30～15:00

講師：篠原資明氏（京大名誉教授、高松市美術館前館長）

申込期間：4月20日（木）～、定員になり次第終了

ワークショップ

すべて 有料・要事前申込

会場：地下1階 研修室
定員：20名（申し込みが多い場合は抽選）
申込期間：3月30日（木）～4月13日（木） 必着

1. 空海もふれた香木 白檀に親しもう！

空海が師・恵果から譲られた国宝「諸尊仏籠」（金剛峯寺蔵）は檀材（香木の白檀）製。空海もふれた白檀の香りで文香（紙製の小さな匂い袋）を作ってみませんか。

日時：4月29日（土・祝）13:30～15:00

講師：岩佐祐次郎氏（香想師）

参加料：2,000円

2. 日本画に挑戦！ 雨の龍王 善女龍王を描く

空海が雨を願った時に現れた善女龍王。金剛峯寺の国宝「善女龍王」は平安時代の絵師定智が描いたイケメン龍王。美しい線描を転写してオリジナル作品に仕上げましょう。

日時：4月30日（日）13:30～16:00

講師：鈴木龍子氏（日本画家）

参加料：1,000円

コンサート

無料・当日受付

高野山金剛流御詠歌コンサート「梵音遊行」

日時：5月13日（土）11:00～、14:00～（各30分程度）

会場：2階西ロビー

奏者：高野山金剛流合唱団四国ブロックの皆さん

定員：先着50名 ※多数の場合は立見可能

参加方法：開演60分前より受付開始



平成26年開催時の様子

カフェポット ミュゼ

くつろぎのひとときに、カフェポット ミュゼをご利用ください。空海展特別メニューもご用意しております。

営業時間：9:00～17:00
（オーダーストップ 16:30）



常設展「多度津藩政資料を読む 一度津藩の引越しー」関連イベント

学芸講座

無料・要事前申込

多度津藩政資料から見る多度津藩庁移転

多度津藩史上、画期のひとつである藩庁の移転。藩政資料から見えてきた藩庁移転について紹介します。

日時：6月11日（日）13:30～15:00

会場：地下1階 研修室

講師：川邊優佑（当館学芸員）

定員：50名（先着順）

申込期間：5月11日（木）～、定員になり次第終了

講演会・学芸講座の申込方法

電話、「かがわ電子自治体システム」(*)を利用したインターネットから。

ワークショップの申込方法

往復はがき、「かがわ電子自治体システム」(*)を利用したインターネットから。1組2名まで申し込み可。往復はがきの場合は、氏名、住所、電話番号、ワークショップ名を明記してください。

申込先：〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課
TEL.087-822-0247

※「かがわ電子自治体システム」を利用する場合

香川県立ミュージアムホームページ右下の「関連リンク」から「【香川県】電子申請・届出メニューのページへ」をクリックしてください。

瀬戸内海歴史民俗資料館のイベント

無料・要事前申込

◎連続セミナー「5つの視点から瀬戸内を見る」

瀬戸内海をテーマに、地質学や漁業、海運、環境などさまざまな分野の講師を招いて多角的な視点から学びます。

日時：① 4月22日（土）「瀬戸内海の成り立ちと海底地質」
長谷川修一氏（香川大学名誉教授）

② 5月14日（日）「底引き網漁師に聞く」
西谷明氏（瀬戸内漁業協同組合副組合長）

③ 5月27日（土）「海の安全を守る」
高松海上保安部職員

④ 6月11日（日）「海ごみ 県境を越えて」
山陽学園中学校・高等学校地歴部

⑤ 6月24日（土）「瀬戸内をアーカイブする」
下道基行氏（瀬戸内「」資料館館長）
村山淳氏（（一社）トピカ代表）

各回10:00～11:30

会場：瀬戸内海歴史民俗資料館 瀬戸内ギャラリー

定員：各回30名（先着順）

申込期間：①② 3月21日（火・祝）～、③④ 4月25日（火）～、

⑤ 5月23日（火）～ 定員になり次第終了

イベントの申込方法

電話または直接来館で。

申込先：瀬戸内海歴史民俗資料館 TEL.087-881-4707

ミュージアムショップ

1階ミュージアムショップでは、当館オリジナルグッズも販売しております。

営業時間：9:00～17:00



香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002(代表) FAX.087-822-0043
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/index.html>



【分館】瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/index.html>



【分館】香川県文化会館

〒760-0017 高松市番町1丁目10番39号
TEL.087-831-1806 FAX.087-831-1807
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/bunkaikaikan/kfvn.html>



日時・内容については変更になる場合があります。最新情報は当館ホームページをご覧ください。

●発行日 令和5年(2023)3月2日 ●編集・発行 香川県立ミュージアム ●印刷 株式会社中央印刷